

古典文法トレーニング 長文課題 品詞分解と現代語訳

大問二二（出典：『伊勢物語』）

◎品詞分解（名詞は基本的に非表示。非活用語は基本的に初出のみ。同色の助詞は同内容を示す。）

昔、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、「思ひもぞ付く」とて、この女をほかへ追ひやらむとす。さこそいへ、まだ追ひやらす。人の子なれば、まだ心に勢ひなかりければ、留むる勢ひなし。女も卑しければ、争ふ力なし。さる間に、思ひはいやまさりにまさる（※1）。にはかに、親、この女を追ひうつ。男、血の涙を流せども、留むるよしなし。率て出でて往ぬ。男、泣く泣く詠める。出でて往なば誰か別れの難からむありしにまさる今日は悲しも

と詠みて、絶え入りにけり。親慌てにけり。「なほ思ひてこそ言ひしか、いとかくしもあらじ」と思ふに、真実に絶え入りにければ、惑ひて願立てけり。今日の入相ばかりに絶え入りて、またの日の戌の時ばかりになむからうじて生き出でたりける。昔の若人は、さる好ける物思ひをなむしける。今の翁、まさにしなむや。

※1：一般に格助詞「に」の接続は体言ないし連体形とされるが、「泣きに泣く」など同じ動作を重ねて強調する場合は、連用形接続となる。

◎現代語訳（『ステップアップノート30 古典文法トレーニング』参照）